

## 学会発表要旨

日本アレルギー学会春期臨床集会（横浜 2003 5/13 発表）

大麦抽出 グルカンの抗体産生に及ぼす修飾作用の解析

椿 和文<sup>1)</sup>、福永有希<sup>2)</sup>、杉山 宏<sup>1)</sup>、東海林義和<sup>1)</sup>、池澤善郎<sup>2)</sup>

1)旭電化工業(株)基礎研究所、2)横浜市大皮膚科

【目的】免疫応答性の修飾によってアレルギーの予防あるいは症状の軽減を図れる可能性を検討するため、免疫応答性に影響を与える食品由来成分を検索している。今回は大麦抽出 グルカン(Barley-β-Glucan:BBG)に着目し、アトピー性皮膚炎(AD)患者のリンパ球画分を培養し、BBG添加による抗体産生への影響とIgE結合性を評価した。

【方法】BBGは、大麦を粉碎後、水抽出し凍結融解法にて濃縮、凍結乾燥して得た。AD患者血液よりリンパ球画分を分離、RPMI-1640培地にて希釈し、BBGあるいはカンジダ抽出物を添加した。7日間、5%CO<sub>2</sub>存在下で培養後、上清中に産生された抗体量をELISAにて測定した。

【結果】AD患者のリンパ球培養では、カンジダ抽出物とBBG添加群は非添加群に比較しIgA抗体産生を有意に促進した。カンジダ添加群ではIgE抗体産生も促進した。BBGとカンジダ抽出物は健常人においてもIgA抗体産生を促進した。AD患者血清を用いたBBGによるIgE抑制試験の結果、BBGは多くのアレルゲン特異的IgE値を阻害せず、大麦特異IgE陽性血清では大麦全抽出物に比較してBBGのIgE結合性は1/100以下であった。BBGはIgE結合性が低く、かつ抗体産生の修飾因子としての機能を有する可能性が示唆された。